特定の社会的出来事に関する自伝的記憶の特性

— 大阪万博の記憶の鮮明度を規定する諸要因 —

○清水 寛之¹・David Anderson² (非会員)

(¹神戸学院大学人文学部・²University of British Columbia)

Key words: 自伝的記憶, 記憶の鮮明度, 回帰分析

【目的】

自伝的記憶(autobiographical memory)とは、個人の過去の出来事に関する記憶を指し、これまでに数多くの研究がなされてきた。本研究は、比較的年齢層の高い人々を対象に、かなり長期間にわたって保持されていると考えられる特定の社会的出来事に関する自伝的記憶の特性を検討し、とくにその鮮明度を規定する諸要因を探ることを目的とする。具体的には、1970年に大阪で開催された万国博覧会に会場した経験をもつ人々に対して面接調査を行い、保持されているエピソードを収集し、それらの記憶の鮮明度が、感情価、目標達成、訪問意欲、リハーサルという4つの変数によってどの程度説明されるのかを検討する。

【方法】

調査対象者 神戸市及び明石市に住む41～88歳の成人48名(男18名、女30名)。平均年齢は67.4歳。大阪万博に会場した当時、10歳未満であった者が1名、10歳代が7名、20歳代が7名、30歳代が17名、40歳代が13名、50歳代が3名であった。万博への会場回数、1回が23名、2回が10名、3回が8名、4回が2名、5～10回が5名であった。

調査手続き 調査時期は2004年8月16～20日。調査は個別に面接して行われた。調査対象者に対して1970年(調査時の34年前)の大阪万国博覧会に関する想起を求めた。面接場面には被面接者のほかに面接者2名と記録者1名がおり、被面接者の許可を得て面接の様子はビデオカメラで録画された。具体的な質問内容として、①万博に関する全般的な自発的想起、②万博訪問時の特定のエピソードの想起、③想起手がかりとして万博に関する映像とテーマ音楽(約5分間)をノート型パソコンで提示した後のエピソード想起、④万博訪問時の自己の社会的状況、⑤万博に関する記憶の感情的要素(味や匂い、感情など)、などについて口頭による反応を求めた。一人あたり面接調査に要した時間は30～45分であった。

分析方法 調査対象者全員から収集した112のエピソードを分析の対象とした。録画データをもとにそれぞれのエピソードに対して、①記憶の鮮明度(4件法:1=低い, 4=非常に高い)、②感情価(7件法:1=非常にネガティブ, 7=非常にポジティブ)、③目標達成(7件法:1=まったく達成されなかった, 7=完全に達成された)、④訪問意欲(3件法:1=低い, 3=高い)、⑤リハーサル(4件法:0=まったくない, 3=非常に多い)の5つの次元について評価を行った。112のエピソードのうち評価値が得られたのは、上記の①と②と⑤については112(100.0%)、③については92(82.1%)、④については84(75.0%)であった。

【結果と考察】

記憶の鮮明度に関する評価値を従属変数(Yとおく)として、それ以外の変数の評価値を独立変数(上記②から⑤を順に X_1 , X_2 , X_3 , X_4 とおく)として重回帰分析を行ったところ、次の回帰式が得られた。

$$Y = -0.015X_1 + 0.157X_2 - 0.064X_3 + 0.637X_4 + 1.574$$

各項の係数の有意水準は、順に 0.746, 0.051, 0.223, 0.000, 0.000 であった。決定係数(R^2)は0.454であった。これら4つの変数のなかでは、相対的にリハーサルの多少が記憶の鮮明度にもっとも強く影響していることがうかがわれる。

単純回帰を調べたところ、記憶の鮮明度と感情価との関係は

$Y = 0.136X_1^2 - 0.003X_1 + 2.088$, ($p < .001$, $R^2 = 0.229$), 記憶の鮮明度と目標達成との関係は $Y = 0.084X_2^2 - 0.055X_2 + 2.367$, ($p < .01$, $R^2 = 0.114$), という式で表せた。訪問意欲の程度に分けて記憶の鮮明度と目標達成との関係を調べると、図1のパターンが得られた。記憶の鮮明度とリハーサルとの関係は、 $Y = -0.137X_4^2 - 1.091X_4 + 1.478$, ($p < .001$, $R^2 = 0.431$)という式で表せた(図2)。

図1 訪問意欲の程度別に見た記憶の鮮明度と目標達成との関係

図2 記憶の鮮明度とリハーサルとの関係

全体として万博への訪問意欲が強い(非常に went かった)場合、あるいは弱い(とくに went くなかった)場合には、訪問の目標が完全に達成されたり、まったく達成されなかったりしたときに記憶の鮮明度が高くなるが、訪問意欲が中程度の場合は、逆に訪問目標の達成があいまいなエピソードがやや鮮明に記憶される傾向にあった。リハーサルの多少は万博の記憶の鮮明度に強く影響したが、その影響力はリハーサルが増えるにつれて減少していくのかもしれない。

(SHIMIZU Hiroyuki, David ANDERSON)